

農場通信

農業活動での汗を感動へ ～実習による成就感と達成感～

■玉川保育園との交流授業（システム園芸科）

2年システム園芸科「生物活用」の授業では、9月11日（月）、玉川保育園の園児の皆さんと今年3回目の交流活動を行いました。今年、6月にみんなで田植をしたイネを刈り取りました。3回目の交流活動だったので、園児と生徒は久しぶりの再会を喜んでいました。生徒たちが主体となってイネの刈り方の説明や注意事項をポップに書いたり、実際に見せたりとわかりやすく伝えるように工夫を重ねていました。生徒たちからは、「久しぶりに園児に会って心配していたけど、楽しく作業ができて良かった。」「園児の方からもたくさん話してくれた。次回の交流も楽しみ!」という感想がありました。次回は11月7日にサツマイモの収穫を予定しています。



■スマート林業体験学習（森林科学科）

今、林業ではスマート林業と呼ばれるICT技術の導入が積極的に行われています。今回、県立農林大学校との連携授業としてドローンの操作体験学習を行いました。ドローンは急傾斜が多い日本の山林において、素早く現場を確認し、撮影したデータを分析できます。また、その場所の樹木の種類や高さ、数を調べることができます。10年、20年後の森林の姿を予測できることから、森林の計画に大いに活用されています。このような林業の最新技術を体験により、新しい林業を学習しています。



■3年生、土木現場を見学（環境土木科）

今年の夏休みは、2年生のインターンシップが4年振りに行われました。今年の夏は暑く、参加した生徒も大変だったと思いますが、土木業や働くことを体験する良い機会となりました。この体験が、夏休み明けの専門教科の学習に生かされていると感じています。

また、3学年が現場見学会を行いました。山梨市落合の畑地帯総合整備事業、北杜市明野町の農地環境整備事業、韮崎市神山町の中山間地域総合整備事業について説明と作業風景を見学しました。机上の学習と違う土木現場を見て、生徒たちは目を輝かせて話を聞いていました。新型コロナウイルスの影響で自粛していた行事が動き始め、貴重な体験となっています。



■タマイブキの刈り込み（造園緑地科）

本校には、噴水を中心として芝生が広がるフランス式庭園、日本伝統手法で造られた日本庭園、野鳥が食べる樹木で構成されている自然風庭園、黎明館前に広がる壁泉がある黎明庭園、岩石や植物で構成された枯山水式庭園などの庭園があり、これらの庭園の維持管理による実践的な学習を行っています。

夏が過ぎ、秋が深まるこの時期、常緑樹を中心にした樹木剪定を行っています。2年生では剪定バサミや刈込バサミ、トリマーを使用してフランス式庭園噴水周辺のハクチョウゲ（樹木）を刈り込みました。丁寧な剪定作業後は、見た目も美しくなるとともに、見る人も楽しむことができます。造園は、庭を造るだけでなく、樹木を美しく剪定する仕事でもあります。



■伝統的なワイン仕込みに挑戦！！（食品科学科）

食品科学科では恒例のワイン製造実習が9月から始まりました。今年の仕込みでは、その随所に新たな技法を取り入れました。そのひとつが「手除梗」です。除梗とは仕込み時に果梗（ブドウの軸）を取り除く作業のことであり、通常は機械を使って行います。今回は森林科学科が作成してくれた「除梗板」を使用して、手作業で果梗を取り除きました。機械を使用することによって時間は掛かりますが、その分より丁寧な作業を進めることができました。果梗から取り外されたブドウの粒は足で踏んで潰され、アルコール発酵を始めるためにタンクに移動させました。現代での主流とは異なる伝統的な手法を用いて製造されたワインはどのような味わいになるのか、とても楽しみです。



■イオンモール甲府昭和で山梨県産業教育フェアを開催（農場）

10月14日（土）、「山梨県産業教育フェア」がイオンモール甲府昭和で開催され、日頃の学習成果を展示や発表しました。この産業教育フェアは、県内の農業、工業、商業、家庭科を配置するすべての高校が集まり、学校紹介等をするイベントで、3年に1回開催しています。

もちろん、農業系高校は農産物販売を開催し、本校で獲れた新米やパンジー、ピオラなどの草花の販売しました。ワイン用コルクの瓶詰めや木製キーホルダーづくり、橋のペーパークラフトなどの体験コーナーも開催し、小さなお子さんなどが参加をしてくれました。また、イオンモールの入口に造園緑地科の生徒が作った庭園を展示し、多くの方が鑑賞していました。イベント会場ではシステム園芸科の3年生が作ったハロウィーンのリースが展示され、会場をにぎやかに飾りました。

